

●憲兵隊建築物について

Q.

文化財保存活用地域計画に新発田市が選ばれた事おめでとうございます。

私は歴史には疎いのですが、新発田藩～軍の施設～自衛隊駐屯地は切っても切り離せないのでは無いですか？それなのに市民になんの説明もなく「取り壊し」を決定するなどとは訳が分かりません。取り壊してしまったものは二度と造れません。再考をお願いしたいです。

(令和5年7月受付)

A.

新発田憲兵分隊庁舎は、昭和11年5月に建築され、終戦後においては、各種機関や団体が使用し、平成13年からは、市民ギャラリーとして使用してきました。市民ギャラリーとして整備した際には、曳家により県道際から現在の位置まで移動したほか、老朽化した屋根や外壁、窓、内壁の部材を新しい部材に交換するとともに、基礎を刷新するなどの大規模修繕を行っております。それから20年余りが経過し、躯体の老朽化が著しいことに加え、耐震基準も満たしておらず、このまま公共施設として使用することは危険であるとの判断から、令和2年3月末をもって閉館しました。

閉館後、建物保存、移築について検討を重ねた結果、ご指摘のとおり、建物が辿った歴史から「陸上自衛隊新発田駐屯地内の白壁兵舎協への移築」が望ましいと判断し、自衛隊と折衝をしまいましたが、最終的には受け入れていただくことができませんでした。一方、この建物を公共施設として再び利活用しようとした場合、躯体の部材交換工事や、耐震補強工事などを行う必要があり、憲兵庁舎としての本来の姿からはかけ離れてしまうほか、その費用についても新築した場合と同程度の非常に高額なものとなる見込みでありました。

そうしたことから、図面や写真を保存した上で建物を解体し、その部材の一部を将来復元する機会に備えて保管することとし、本年2月定例会の一般会計予算審査特別委員会において、解体に至る経緯を説明するとともに、市民の皆様の代表である市議会議員の皆様に、解体に係る予算について審議いただき、御承認をいただいたものであります。憲兵庁舎という歴史ある、この建物を後世に残したいという想いは、私も同じであります。しかし、人口減少問題や少子化対策といった市の喫緊の課題がある中、保存のために巨額の費用をかけることは、市の財政面だけでなく、跡地の有効活用の観点からも最善とは言えず、建物を解体し、跡地を売却して福祉予算を生み出すことこそが、採るべき道であると決断した次第であります。何卒ご理解いただけますようお願いいたします。

(令和5年8月4日回答)

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。